

# 下石川地すべり災害

下石川は茶臼山南方の長野市篠ノ井地区にあります。平成11年9月28日に地すべり現象が確認され、一時は土塊移動量が4mm/h以上になり、斜面下方の住民が自主避難することとなりました。

## 1 亀裂発見当初



撮影：平成11年9月

## 3 亀裂の幅が1m以上に広がる



撮影：平成11年11月

## 5 頭部東側拡大、段差が3m以上になる



撮影：平成12年2月

## 7 3回目の整形および排土工事実施状況



撮影：平成12年11月

## 地すべり頭部の変化

### 2 亀裂の段差が明瞭になる



撮影：平成11年10月

### 4 排土工事完了後の斜面状況



撮影：平成12年1月

### 6 2回目の整形および植生マット張付け後



撮影：平成12年5月

### 8 法枠工施工後



撮影：平成13年2月

## 側方亀裂部(東側)の変化

約1カ月で横に2m以上移動した。



撮影：平成11年11月



撮影：平成11年12月

## 側方亀裂部(西側)の変化

地すべりの発生から3カ月経過した時点で50cm以上の段差ができた。



撮影：平成12年1月

リンゴ畑内に、直進性のよい断層のような亀裂が生じた。亀裂付近のリンゴの木だけ傾いていることが分かる。



撮影：平成12年4月



撮影：平成12年1月

地すべり発生直後から、県及び長野市、住民代表、警察及び消防、学校などの関係者からなる「現地連絡会議」を開催し、24時間観測体制や緊急連絡・避難体制を整え、関係者への情報開示に努めました。

また、地すべり発生から1ヶ月後の平成11年10月26日から対策工事に着手し、平成12年7月には地すべりがほぼ収まり、人的被害を出すことなく平成13年度に概成しました。



長野市篠ノ井石川の地滑りで今後の対策について質問する住民

**被災指定区域の  
対象世帯に説明**

長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、市が被災指定区域に指定された世帯の世帯主や同居の親族に対し、被災指定区域の指定理由や今後の対策について説明する説明会が開かれた。

説明会は、市建設課が主催し、被災指定区域の世帯主や同居の親族約四十人が参加した。説明は、被災指定区域の指定理由や今後の対策について説明した。説明会は、市建設課が主催し、被災指定区域の世帯主や同居の親族約四十人が参加した。

長野篠ノ井で地滑りの兆候

長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域二階建ての住宅が地滑り兆候を示している。市建設課は、地滑り兆候を示している住宅の世帯主や同居の親族に対し、地滑り兆候の兆候や今後の対策について説明する説明会を開いた。

地滑りじわり生活に影

亀裂広がり監視強化 3世帯一時自主避難



長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、亀裂が広がるなど地滑り兆候が確認された。市建設課は、亀裂が広がるなど地滑り兆候が確認された世帯に対し、監視を強化し、一時自主避難を要する世帯もある。

真綿で首を絞められるようだ

長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、真綿で首を絞められるように地滑り兆候が確認された。市建設課は、真綿で首を絞められるように地滑り兆候が確認された世帯に対し、監視を強化し、一時自主避難を要する世帯もある。



長野市篠ノ井石川の山崩で起こった地滑り。28日午後1時50分



篠ノ井 172人 緊迫の避難訓練

長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、地滑り災害に備え、長野市や地元消防などが実施した避難訓練が開かれた。避難訓練は、夜間に行われ、約五十人が参加した。避難訓練は、夜間に行われ、約五十人が参加した。

崩壊土砂再び動いた?

地滑りの信大教授調査で見解



長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、崩壊土砂が再び動いた。信大教授の調査によると、崩壊土砂が再び動いた可能性がある。信大教授の調査によると、崩壊土砂が再び動いた可能性がある。

対策工事 畑失う切なさも

長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、対策工事による畑の喪失が切なさを招いている。対策工事による畑の喪失が切なさを招いている。



長野市篠ノ井の地滑り被災指定区域の世帯に、対策工事による畑の喪失が切なさを招いている。